

JR西労組結成25周年を機に 歴史を振り返り責任ある未来につなげよう!

JR WEST 西労組 UNION ニュース

号外
結成25周年特集
No.5
2017.6.15
JR西労組ホームページ
(http://www.jrw-union.gr.jp)

西日本旅客鉄道労働組合
本部 530-002 大阪市北区東田町(西成区)番八号
TEL 06-6375-1989
FAX 06-6375-1987
JR(大阪)06-6375-1987
JR(神戸)06-6375-1987
JR(岡山)06-6375-1987
JR(広島)06-6375-1987
JR(徳島)06-6375-1987
JR(高松)06-6375-1987
JR(香川)06-6375-1987
JR(愛媛)06-6375-1987
JR(福岡)06-6375-1987
JR(熊本)06-6375-1987
JR(鹿児島)06-6375-1987
JR(沖縄)06-6375-1987

結成25周年特集(その5)

2001~2004年度 民主化闘争支援や三日月選挙などへの取り組み

今号では、2001年度から2004年度までの民主化闘争支援や、三日月衆議院議員の選挙運動などへの取り組みについて振り返ります。

2001年7月3日(土)にホテルグランヴィア京都で開催された第13回定期大会では、TIS本部の日本旅行への営業譲渡、可部線、新幹線コンクリート問題などの総括のほか、「環境に優しい鉄道の復権」をテーマに討議されました。なお、6月に開催されたJR連合第10回定期大会では、葛野和明会長が退任し明石洋一会長が就任するとともに、JR西労組出身の角田修作氏が事務局長に就任しました。

また、2002年7月10日(土)にホテルグランヴィア岡山で開催された第14回定期大会では、討議を重ねてきた新たな中期ビジョン「ステップ21」が確認されました。これを契機に運動の継承に関する課題が提起、共有され、取り組みが本格始動しました。

このほか、2002年5月2日には、JR西労組の組織の充実に貢献されてきた中央本部田内副委員長が急逝、6月に故人を偲ぶ「お別れ会」が開催されました。

東日本民主化闘争を積極的に支援

「特集第1号・第2号」で述べた通り、JR連合に加盟するJR西労組、JR東海ユニオン、JR四国労組、JR九州労組は各社の第一組合として民主的な運動を進め健全な労使関係の構築を進めていく。

一方、JR東日本、北海道、貨物ではJR総連の加盟組合が多数を占め、革マル派の影響を受けて独善的、排他的な組織運営を進め、JR連合をはじめ他労組の組合員や、協力的でない自らの組合員を、執拗かつ陰湿に恫喝、糾弾する異常な非民主的、排他



2001~2004年度・民主化闘争支援や三日月選挙などの取り組み[年表]	
2001年5月23日(平成13年)	衆議院国土交通委員会で革マル浸透問題について質疑。民主党吉田議員・民主党今野議員
5月23日	衆議院国土交通委員会で革マル浸透問題について質疑。社民党日森議員・自由党西村議員
5月25日	大阪駅前でチラシ配布を実施。国会でJR完全民営化と革マル疑惑が審議されていることを踏まえ世論喚起行動
6月5日	東日本鉄産労組員30名を囲む激励オルグを実施
6月6日	水戸支社と水戸駅前で東日本鉄産労組員20名とビラ配布行動実施
6月7日	参議院国土交通委員会で革マル浸透問題について質疑。民主党山下議員
6月15日	コンクリート問題でJR西日本は31社に損害賠償請求を行った結果31社から24億円の和解金が決定。JR西労組37万名の署名活動の成果
6月25日	TIS統合問題 残された課題について交渉
6月28日	TIS統合問題について協定を締結
7月3日~5日	第13回定期中央本部大会(京都大会) 京都議定書批准をはじめ地球温暖化にむけた要望書を特別決議 組合員数32,313名、組織率85.4%
7月16日	本部大会で特別決議した「京都議定書批准をはじめ地球温暖化にむけた要望書」を小泉首相と関係大臣に提出
7月27日	神戸地本、新神戸駅のぞみ停車に向けて県・市・観光協会・商工会などに利用要請を行うとともに、チラシ配布も実施
8月19日	TIS部会 第9回定期委員会を開催。終了後解散大会(大阪弥生会館)35名 10月1日からの日本旅行との統合を前に。執行部は9月末まで継承
9月11日	第1回拡大政策調査委員会を開催。2001年ビジョンを踏まえた新たな中期ビジョン(仮)の策定について議論
10月1日	TIS本部と日本旅行が事業統合し組合員が転籍。転籍同意者:TIS本部971名のうち633名(65%)、TIS所属以外から12名
10月11日	可部線存続運動 県庁前や広島駅など主要駅頭でチラシ配布と活性化集会・自治体との意見交換会を開催
11月15日	可部線存続運動 JR西労組・自治体意見交換会を開催。(ホテルグランヴィア広島) 終了後、広島駅・可部線沿線6千枚のチラシを配布利用実績で存続を訴える
11月20日	JR連合 JR貨物の民主化行動を広島地区で実施(広島車両所の正門裏門)JR西労組・四国労組・貨物鉄産労40名でチラシ配布
12月1日	改正JR会社法施行 完全民営化へ
12月6日	JR連合、第8回政策シンポジウムを開催(大阪市内)300名が参集 テーマ「総合交通体系のあり方とJRの役割」
12月20日~21日	JR連合、民主化闘争支援のため、北海道鉄産労支援行動を実施
2002年1月10日(平成14年)	JR西労組結成10周年記念式典と新春賀詞交歓会を開催(ホテルグランヴィア京都) 350名参集
1月16日	JR連合、執行委員会がジェイアール東日本ユニオンの加盟申請を承認
1月23日	第1回賃金対策委員会を開催 各産業・企業でベア(春闘)離脱が伝えられる中、純ベア千円と年間臨給を要求
2月8日	第19回中央委員会を開催。春闘離脱の産別・単組が相次ぐ中春闘要求など活動方針を決定
2月14日	春闘要求を提出。ベア要求を断念する産別・単組が相次ぐ中、ベア千円と年間臨給5.7ヶ月を要求



自民党平沢議員の質問に答弁する中井国家公安委員長 (JR連合革マル派対策冊子)より

JR連合「民主化闘争宣言」を発する!

1999年1月の賀詞交歓会において、JR連合の葛野会長は、JR労働界からの革マル派の一掃、とりわけ、本丸であるJR東日本の労務政策と労使関係を正常化する「民主化闘争宣言」を発しました。

この動きに反応してか、1999年から2001年にかけて、各地で東労組役員がJR連合や国労の組合員、会社の管理者、東労組内の非協力的な組合員らに暴力や暴言を振るう事件が多発しました。例えば、JR東労組の組合員が、JR連合の組合員と交流したことをきっかけに、職場で徹底して追及、恫喝されて運転士を辞めさせられた三鷹電車区事件。同じく退職に追い込まれた浦和電車区事件。

これ以降、東日本をはじめ各地へのオルグ団の派遣、民主化支援カンパの実施、決起集会の開催などが実施され、

この動きに反応してか、1999年から2001年にかけて、各地で東労組役員がJR連合や国労の組合員、会社の管理者、東労組内の非協力的な組合員らに暴力や暴言を振るう事件が多発しました。

例えば、JR東労組の組合員が、JR連合の組合員と交流したことをきっかけに、職場で徹底して追及、恫喝されて運転士を辞めさせられた三鷹電車区事件。同じく退職に追い込まれた浦和電車区事件。

この動きに反応してか、1999年から2001年にかけて、各地で東労組役員がJR連合や国労の組合員、会社の管理者、東労組内の非協力的な組合員らに暴力や暴言を振るう事件が多発しました。

例えば、JR東労組の組合員が、JR連合の組合員と交流したことをきっかけに、職場で徹底して追及、恫喝されて運転士を辞めさせられた三鷹電車区事件。同じく退職に追い込まれた浦和電車区事件。

この動きに反応してか、1999年から2001年にかけて、各地で東労組役員がJR連合や国労の組合員、会社の管理者、東労組内の非協力的な組合員らに暴力や暴言を振るう事件が多発しました。

例えば、JR東労組の組合員が、JR連合の組合員と交流したことをきっかけに、職場で徹底して追及、恫喝されて運転士を辞めさせられた三鷹電車区事件。同じく退職に追い込まれた浦和電車区事件。

この動きに反応してか、1999年から2001年にかけて、各地で東労組役員がJR連合や国労の組合員、会社の管理者、東労組内の非協力的な組合員らに暴力や暴言を振るう事件が多発しました。

例えば、JR東労組の組合員が、JR連合の組合員と交流したことをきっかけに、職場で徹底して追及、恫喝されて運転士を辞めさせられた三鷹電車区事件。同じく退職に追い込まれた浦和電車区事件。

この動きに反応してか、1999年から2001年にかけて、各地で東労組役員がJR連合や国労の組合員、会社の管理者、東労組内の非協力的な組合員らに暴力や暴言を振るう事件が多発しました。

例えば、JR東労組の組合員が、JR連合の組合員と交流したことをきっかけに、職場で徹底して追及、恫喝されて運転士を辞めさせられた三鷹電車区事件。同じく退職に追い込まれた浦和電車区事件。

この動きに反応してか、1999年から2001年にかけて、各地で東労組役員がJR連合や国労の組合員、会社の管理者、東労組内の非協力的な組合員らに暴力や暴言を振るう事件が多発しました。

例えば、JR東労組の組合員が、JR連合の組合員と交流したことをきっかけに、職場で徹底して追及、恫喝されて運転士を辞めさせられた三鷹電車区事件。同じく退職に追い込まれた浦和電車区事件。

も発生しています。そして、警察による革マル派非公然アジトの摘発により、JR総連と同派との関係についての説明が進められるとともに、国会でも革マル浸透問題に関する審議が進み、2000年11月の、民主党山下八洲夫参議院議員(JR連合国会議員懇談会)の質問を皮切りに、政府は繰り返し「JR総連およびJR東労組内において、影響力を行使し得る立場に革マル派活動家が相当浸透している」との公式見解を明らかにしています。

JR連合の民主化闘争により、被害者は職場復帰を果たす

浦和電車区事件の被害者である吉田氏の告訴により、警視庁公安部は、2002年11月にJR東労組役員に加害者7名を逮捕し、全員が起訴されました。2003年2月から東京地裁で始まった刑事裁判の公判は59回に上り、JR西労組からも青年女性組合員を中心に傍聴券獲得行動に積極的に参加してきました。

2007年7月には7名全員を有罪とする一審判決が下され、JR東日本は翌月には懲戒解雇処分として吉田氏を起訴しました。その後は勇気を持って復職を決定し、JR連合の支援によって2010年1月に会社への復帰を果たしました。また、三鷹電車区事件の被害者の佐藤氏は、2008年7月に運転士の職に就くことができました。JR西労組においても、吉田氏、佐藤氏を集会に招くなどとして、繰り返し支援行動を行ってきたと述べています。

なお、浦和電車区事件については、最終的に2012年2月に加害者7名の上告が棄却され有罪が確定しました。JR連合の民主化闘争によって、JR東

も発生しています。そして、警察による革マル派非公然アジトの摘発により、JR総連と同派との関係についての説明が進められるとともに、国会でも革マル浸透問題に関する審議が進み、2000年11月の、民主党山下八洲夫参議院議員(JR連合国会議員懇談会)の質問を皮切りに、政府は繰り返し「JR総連およびJR東労組内において、影響力を行使し得る立場に革マル派活動家が相当浸透している」との公式見解を明らかにしています。

JR連合の民主化闘争により、被害者は職場復帰を果たす

浦和電車区事件の被害者である吉田氏の告訴により、警視庁公安部は、2002年11月にJR東労組役員に加害者7名を逮捕し、全員が起訴されました。2003年2月から東京地裁で始まった刑事裁判の公判は59回に上り、JR西労組からも青年女性組合員を中心に傍聴券獲得行動に積極的に参加してきました。

2007年7月には7名全員を有罪とする一審判決が下され、JR東日本は翌月には懲戒解雇処分として吉田氏を起訴しました。その後は勇気を持って復職を決定し、JR連合の支援によって2010年1月に会社への復帰を果たしました。また、三鷹電車区事件の被害者の佐藤氏は、2008年7月に運転士の職に就くことができました。JR西労組においても、吉田氏、佐藤氏を集会に招くなどとして、繰り返し支援行動を行ってきたと述べています。

なお、浦和電車区事件については、最終的に2012年2月に加害者7名の上告が棄却され有罪が確定しました。JR連合の民主化闘争によって、JR東

も発生しています。そして、警察による革マル派非公然アジトの摘発により、JR総連と同派との関係についての説明が進められるとともに、国会でも革マル浸透問題に関する審議が進み、2000年11月の、民主党山下八洲夫参議院議員(JR連合国会議員懇談会)の質問を皮切りに、政府は繰り返し「JR総連およびJR東労組内において、影響力を行使し得る立場に革マル派活動家が相当浸透している」との公式見解を明らかにしています。

JR連合の民主化闘争により、被害者は職場復帰を果たす

浦和電車区事件の被害者である吉田氏の告訴により、警視庁公安部は、2002年11月にJR東労組役員に加害者7名を逮捕し、全員が起訴されました。2003年2月から東京地裁で始まった刑事裁判の公判は59回に上り、JR西労組からも青年女性組合員を中心に傍聴券獲得行動に積極的に参加してきました。

2007年7月には7名全員を有罪とする一審判決が下され、JR東日本は翌月には懲戒解雇処分として吉田氏を起訴しました。その後は勇気を持って復職を決定し、JR連合の支援によって2010年1月に会社への復帰を果たしました。また、三鷹電車区事件の被害者の佐藤氏は、2008年7月に運転士の職に就くことができました。JR西労組においても、吉田氏、佐藤氏を集会に招くなどとして、繰り返し支援行動を行ってきたと述べています。

なお、浦和電車区事件については、最終的に2012年2月に加害者7名の上告が棄却され有罪が確定しました。JR連合の民主化闘争によって、JR東

も発生しています。そして、警察による革マル派非公然アジトの摘発により、JR総連と同派との関係についての説明が進められるとともに、国会でも革マル浸透問題に関する審議が進み、2000年11月の、民主党山下八洲夫参議院議員(JR連合国会議員懇談会)の質問を皮切りに、政府は繰り返し「JR総連およびJR東労組内において、影響力を行使し得る立場に革マル派活動家が相当浸透している」との公式見解を明らかにしています。

JR連合の民主化闘争により、被害者は職場復帰を果たす

浦和電車区事件の被害者である吉田氏の告訴により、警視庁公安部は、2002年11月にJR東労組役員に加害者7名を逮捕し、全員が起訴されました。2003年2月から東京地裁で始まった刑事裁判の公判は59回に上り、JR西労組からも青年女性組合員を中心に傍聴券獲得行動に積極的に参加してきました。

2007年7月には7名全員を有罪とする一審判決が下され、JR東日本は翌月には懲戒解雇処分として吉田氏を起訴しました。その後は勇気を持って復職を決定し、JR連合の支援によって2010年1月に会社への復帰を果たしました。また、三鷹電車区事件の被害者の佐藤氏は、2008年7月に運転士の職に就くことができました。JR西労組においても、吉田氏、佐藤氏を集会に招くなどとして、繰り返し支援行動を行ってきたと述べています。

なお、浦和電車区事件については、最終的に2012年2月に加害者7名の上告が棄却され有罪が確定しました。JR連合の民主化闘争によって、JR東

も発生しています。そして、警察による革マル派非公然アジトの摘発により、JR総連と同派との関係についての説明が進められるとともに、国会でも革マル浸透問題に関する審議が進み、2000年11月の、民主党山下八洲夫参議院議員(JR連合国会議員懇談会)の質問を皮切りに、政府は繰り返し「JR総連およびJR東労組内において、影響力を行使し得る立場に革マル派活動家が相当浸透している」との公式見解を明らかにしています。

JR連合の民主化闘争により、被害者は職場復帰を果たす

浦和電車区事件の被害者である吉田氏の告訴により、警視庁公安部は、2002年11月にJR東労組役員に加害者7名を逮捕し、全員が起訴されました。2003年2月から東京地裁で始まった刑事裁判の公判は59回に上り、JR西労組からも青年女性組合員を中心に傍聴券獲得行動に積極的に参加してきました。

JR総連・九州労では大量脱退事件が発生

2000年10月には、JR総連加盟の九州労(924名)から、組織の7割を超える651名の組合員が突如脱退し、JR連合加盟のJR九州労組に加入届を提出する奇怪な事件が発生しました。JR九州労組が加入届を返却したところ、脱退者は2001年11月に、新たに九州ユニオンを結成してJR総連に加盟。その後2006年2月にはJR総連を脱退するという経過をたどりました。また、JR九州労組の一括加入に失敗した後の2000年11月に、革マル派がこの計画に関与したJR総連OBで同派の大物とみられる人物を拉致、監禁するという事件も起こりました。背後に革マル派内部の対立があると分析されています。

岡山地本では国労を大量脱退しJR西労組に加入

JR不採用問題に明け暮れて展望の見えない国労指導部への不満を理由に、2004年11月には岡山地区の国労から50名が大量脱退し、うち39名がJR西労組に加入しました。JR連合の民主化闘争とも呼称して西労からの加入も続き、2004年末でJR西労組の組織率は87.5%に向上し、当面の目標である90%達成が視野に入る段階となりました。

わられたハンドル

JR東日本・浦和電車区事件の真相
JR連合 民主化闘争推進委員会(中絶)
http://www.jrw-union.gr.jp